

関西生コン労働組合の弾圧を許さない東京の会 結成おめでとう！

2020年3月10日

関西生コン労組つぶしの弾圧を許さない東海の会
事務局長 近森泰彦

1980年台後半、中曽根政権は国労壊滅を目指して、国鉄解体・民営化を強行して所期の目的を果たしました。引き続き戦後政治の総決算を旗印にかかげる安倍独裁政権は現在たたかう労働組合の中核をなす関西生コン労組に対して財界・権力挙げての弾圧に踏み込みました。

この事態を看過できないとする当地域の有志によって滋賀県警、同地裁に対する抗議文を一昨年秋に発信しました。

その後、この地域でともに活動する秘密保護法に反対する市民の会、東海労働弁護団、自由法曹団愛知支部などがあいついで抗議声明を発し労働者や市民に真実を知らせるとともに共同の運動への参加を呼びかけました。このようにして初期の流れが生まれ、昨年4月に関生弾圧を考える集会をもちこの場で準備会が発足、6月に東海の会結成に至りました。

熊沢先生には当初から代表委員を務めていただいております。いま会の活動はメーリングリストに登録していただいた会員にメールで呼びかけ毎月1回運営会議をもって当面の活動を決めています。最初の大きな取り組みは昨年11月16日の大阪行動でした。多くの方が分担し、かなりの労力を割いて大型バスで参加したことが今に生きる経験になりました。

運営会議前に定例化してノボリをたてハンドマイクで訴えながらチラシ配付を名古屋駅前で行っています。会の活動を多くの方が担っていく方向で担当制による運動づくりに取り組み始めたところです。事件を知らせ、共同を呼びかけるニュース（3か月毎8頁建）の発行も始めました。

各地で興る労働者と市民の連帯が憲法第28条が保障する勤労者の団結権・団体交渉権その他団体行動権に基づく働く者の暮らしを向上させる大事な取り組みにつながっていると思います。

首都東京での発足は全国におおきな波紋を広げる契機になっていくでしょう。また異なった意見を持っている個人、組織の方々に対しても民主主義を守るという一点で力を合わせようという力強い呼びかけの機会になることを願っています。スペイン人民はかつてフランコ独裁をたおすために「神を信じる者も信じない者も力を合わせよう！」と呼びかけました。私たちもこの歴史に習って「これはおかしい」と思う人々の連帯にもとづく組織づくりをめざしています。貴組織の発足に際し連帯のご挨拶をお届けします。

以上